

(1) 「」

149×30×4 032

卷頭言

木簡研究第一五号

早川 庄八

一九九二年出土の木簡
概要 平城京跡 平城京左京三条三坊三坪 平城京右京三条二坊三坪 藤原宮跡 藤原京右京五条四坊 丹切遺跡 長岡京跡(1) 長岡
京跡(2) 中海道遺跡 勝龍寺遺跡 平安京跡・旧二条城跡 鳴田遺跡 六大B遺跡 安養寺

宮跡 大坂城跡 大坂城下町跡 喜連東遺跡 平野環濠都市遺跡

植附遺跡 條狹遺跡(内田地区)

番匠地遺跡 瑞巖寺境内遺跡 八幡林遺跡 綾ノ前遺跡 馬場天神

腰遺跡 乾遺跡 宮の西遺跡 赤堀城跡 梓子遺跡 城之内遺跡 二本柳遺跡

二之宮宮東遺跡 安養寺森西遺跡 世良田諏訪下遺跡 小茶臼遺跡

三本谷南遺跡 妻北小学校敷地内遺跡

草戸千軒町遺跡(第五・六・八次)

一九七七年以前出土の木簡(一五)

一乘谷朝倉氏遺跡(第九次) 長岡宮跡(宮第三一・二三三次)

京都府相楽郡木津町鹿背山郷藏の俵上札

頒価 四五〇〇円 送料六〇〇円

上端左右に切り込みがある。杉の柾目板で、表面はていねいに調整されている。肉眼及び赤外線アレビカメラによる観察でも片面に僅かに墨痕が認められるにすぎない。

木簡の年代は出土状況から、九世紀後半に相当すると考えている。埋没谷からは様々な遺物が出土しており官衙的性格も有するが、集落本体が未調査のため実体は不明である。なお、一九九七年度事業として一帯の圃場整備が計画されており、それに伴って、集落の西側と東側(主として中世)を発掘調査する予定で、集落の性格が明らかになることが期待される。

木簡の調査にあたり、宮崎産業経済大学の柴田博子氏の多大なご助力を得た。また釈読については奈良国立文化財研究所の館野和己・渡辺晃宏・古尾谷知浩・山下信一郎の各氏のご教示を得た。

(中野和浩)

国・郡の行政と木簡

—「国府跡」出土木簡の検討を中心として

加藤 友康

京都府相楽郡木津町鹿背山郷藏の俵上札

田中淳一郎



1995年出土の木簡